

和歌の風景 …五月雨 Cover Story

旧暦五月の雨で梅雨のこと。「五月雨」の語は萬葉集にはなく、古今集から登場する。

五月雨に物思ひをればほととぎす

夜深く鳴きていづち行くらむ

古今・夏・紀友則

はじめは夏の代表的な歌材であるホトトギスと組み合わせて詠まれた。今年 志木

上空をホトトギスが通過したのは、六月一日夜、九日夜と十日早朝。繁殖地では昼間も鳴くのだが、渡りの途中であるために夜鳴くことになったのか。

雲に閉ざされた梅雨時の闇の深さを言う語に「五月闇(さつきやみ)」がある。五月闇を飛ぶものは人間に恐れを抱かせる。ホトトギスも冥界とこの世を行き来する鳥とされた。鵲(ぬえ)と呼ばれる化鳥が登場するのも五月闇の晩である。源三位頼政の鵲退治の話が『平家物語』に出ている。一寸先も見えぬ五月闇の中、頼政は見事化鳥を射落としてみせる。

五月闇はその後闇を彩る鵜飼のかがり火、鹿狩りのための照射(ともし)、螢などと組み合わせて詠まれるようになった。揺らめき明滅する光によって闇はその色を深めていく。

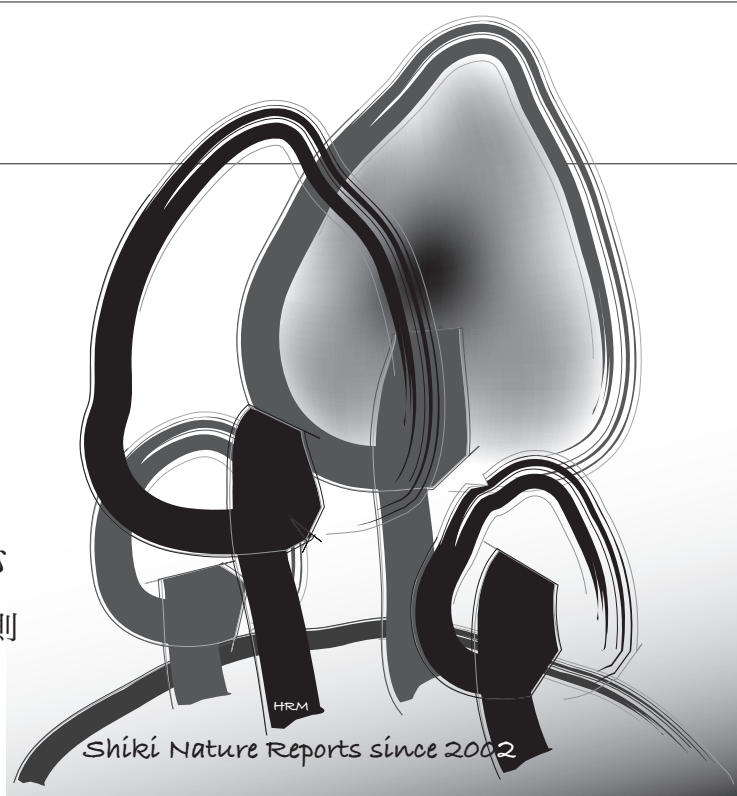
春秋の色のほかなるあはれかな螢ほのめく五月雨の宵

式子内親王

『源氏物語』螢巻では、五月雨の晩玉鬘(たまかづら)のもとに求婚者螢兵部卿の宮が訪れる。玉鬘の素気ない態度に求婚者が焦れるのを待って、光源氏は隠し持っていた螢を放つ。螢の光によって一瞬浮かびある玉鬘の美貌が忘れ難い印象を残す。光源氏は直前の場面で自身が養女玉鬘に言い寄っているのだが、求婚者に対しては光の演出によってあえてその美貌を垣間見させるのだ。螢は明滅する人の心の光と闇を映し出してもいる。

今晚(六月二十六日)は旧暦では閏五月四日、五月闇の晩である。

(Hayami)



志木の自然[卯月(4月), 皐月(5月), 水無月(6月)]

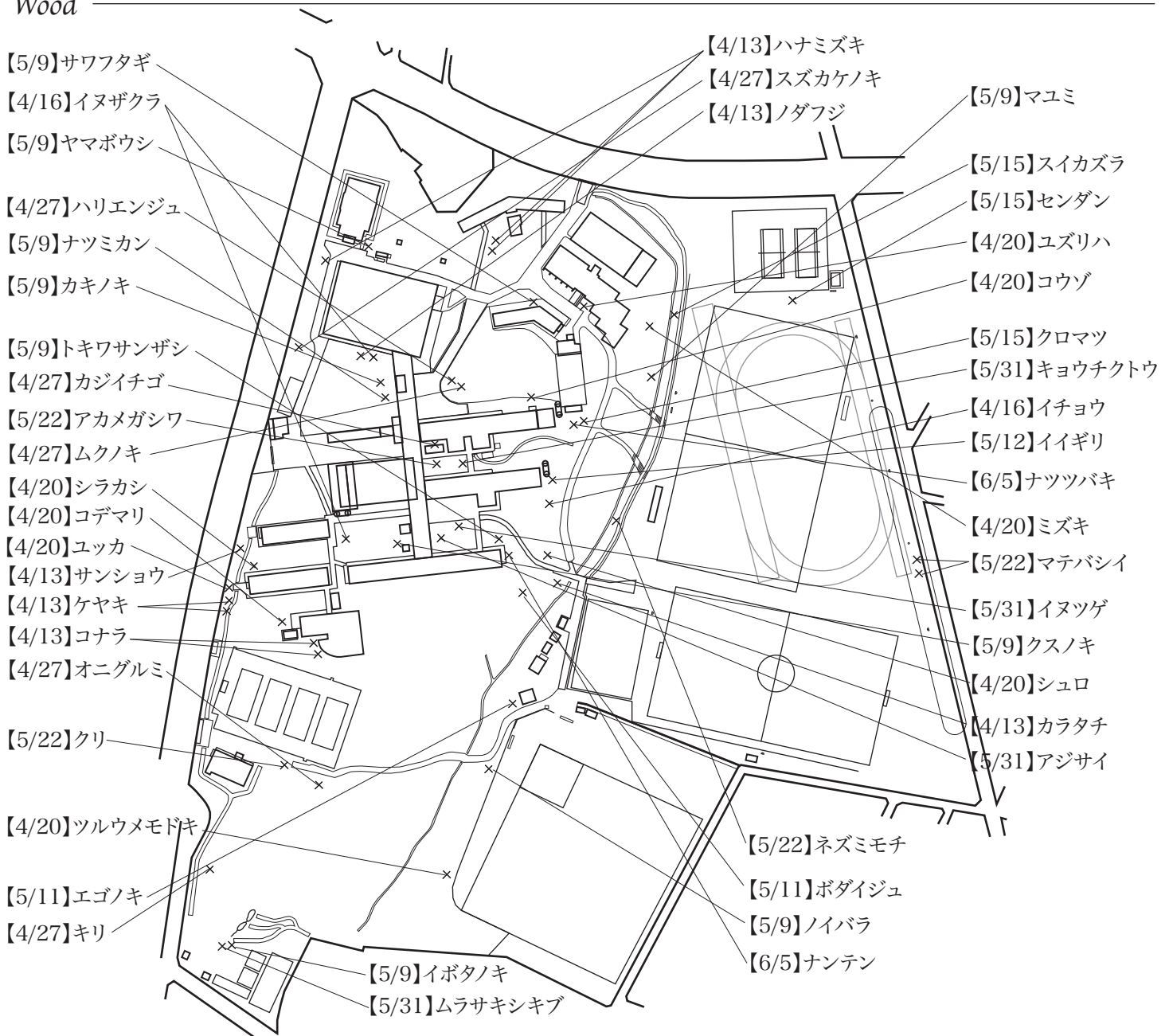
Plants [2009年4月～6月までの開花情報]

樹高の高い木や花の目立たない木の開花は確認がむずかしい。そのような時、足下に落ちているものや「匂い」が重要になっていく。樹高10mを超える本校のクロマツの巨木は、足もとには雄花が落ち始めることで花期の終りを知る。また目立たない「シイの木(いわゆるどんぐりをつける木)」の花は、その花粉がかなり独特な(大抵の人は嫌う)匂いを出す。そのようなものを手がかりにして樹木の開花を知るのである。

Grass

13th Apr. 2009	ヤブタビラコ, ヤブニンジン, イヌムギ, オオジシバリ	
20th Apr. 2009	タチイヌノフグリ, オオバコ, ウマゴヤシ, ツボミオオバコ, ヤブジラミ	
27th Apr. 2009	フタリシズカ, イヌガラシ, ノミノツヅリ, ギシギシ, アメリカフウロ, シュンラン, エビネ	
9th May. 2009	カミジグサ, コヒルガオ, コナスビ	11en May. 2009 アカバナ
15th May. 2009	ドクダミ, イヌガラシ, スズラン	22ve May. 2009 ノビル
31st May. 2009	ヘラオオバコ, アサザ, オオカナダモ, ツユクサ, トキワツユクサ, ハナショウブ	
5th Jun. 2009	ハキダメギク, アカツメクサ	
16th Jun. 2009	ネジバナ	17th Jun. 2009 ヤブガラシ
19th Jun. 2009	イヌタデ	

Wood



この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。
名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

(Miyahashi)

今年7月22日は皆既日食・部分日食です。店頭にも“日食グッズ”のコーナーができ、にわかに注目を集めています。テレビでは過去の皆既日食の映像がたびたび流されています。ただ、皆既日食のエリアは鹿児島県トカラ列島を中心に北は屋久島・種子島、南は奄美大島の北部で、本州や北海道・沖縄は部分日食です。もちろん皆既エリアに近いほど、太陽は大きく欠けます。関東では太陽全体の75%が欠けますが、福岡では90%近くも欠けますし、札幌では50%ほどしか欠けません。

日本で見られる皆既日食は数十年に一度ほどの確率です。世界中のどこかでは年に一度程度の頻度で皆既日食が見られますが、次の日本での皆既日食となると2035年です。ただし、太陽がリング状に見られる金環食であれば2012年5月20日にあります。しかも関東地方をかすめていきます。

日食はどうして皆既食だったり金環食だったりするのでしょうか？

月は地球の周りをニュートンの運動の法則にしたがって楕円軌道で公転しています。このため、今年(2009年)の場合では地球-月の距離が357,462km～406,231kmと変化します。月が地球から近い位置にあるときは、うまく太陽面を覆うことができますが、遠いときは太陽を覆い隠すことができません。このため太陽の外側だけがリング状に見えるわけです。どのくらい遠いと金環食になるかについては計算で求めることができ、地球-月の距離が約37万kmを超えると金環食になることがわかります。(3年地学では既習事項ですね。)

7月22日の地球-月の距離は最接近時の357,462kmですので十分太陽を隠すことができますし、今回の皆既の時間は理論的に最長の場所で6分44秒も継続する計算だそうです[*]。ちなみに、地球-月-太陽の位置関係で決まる皆既日食の最長時間は7分22秒だそうですので、今回の皆既時間はなかなかの長さですね。

“日食グッズ”ですが、お店の方の話では一週間前になると急速に売り上げが上がるそうです。しっかり見たいという人は早めの購入が良いようです。ただ天気が悪いと(梅雨だけにその可能性大!)いざ見ようと思っても売り切れ御免なんてことも…

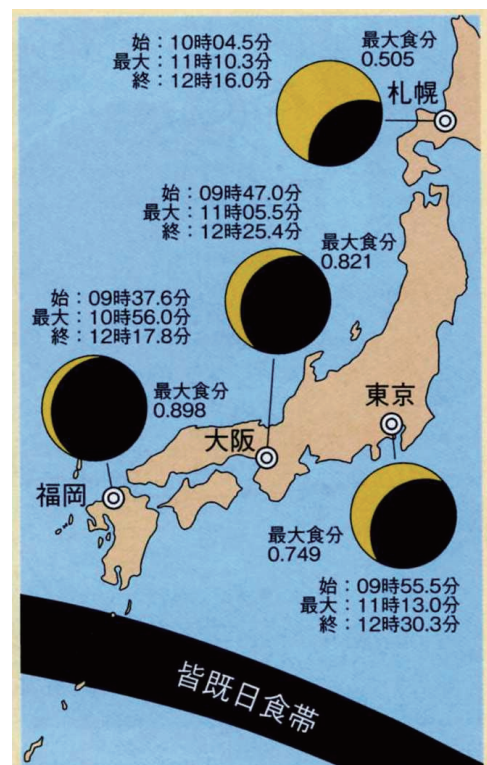
でも、何も持っていなくても太陽が75%も隠れたら空が暗くなりそうです。他にも、木陰の木漏れ日を通った一つ一つの太陽は、欠けたその太陽の形一つ一つになるそうです。

ぜひ、自分なりの日食スタイルで楽しんでください。

(Higuchi)

*: 今回の皆既日食継続時間(理論値)は、今世紀最長です。21世紀がまだ90年以上残っているのに、今回の皆既日食継続時間より長い日食は今世紀(=皆さんが生きている間)はもう見れないのです。

【編集者註】



《図》月刊天文ガイド 2009-1 より

昨年夏にミナミ池（農園わきのビオトープ池）で、アメリカザリガニが見つかって捕獲し、外来種を放されては困るというお話をしました。あの続きになりますが、現在、ミナミ池は大変なことになっています。アメリカザリガニが大繁殖。要は、放されたザリガニは昨年捕獲した1匹ではなかったということです。生物部員ががんばって捕獲（酢イカを使って釣り？）していますが、一旦増えだすと限がない。すでに80匹は獲ったというのですが、池に行くとバシャバシャと音を立てて水中に潜るほどです。

今回、当たり前ですが、やはりアメリカザリガニは日本の生態系には合わない、日本の生き物ではないということをつくづく知らされました。1つは、池の容積を無視して増殖し共食い状態にあること。またアサザをはじめ池に植栽した植物を食いつくし壊滅状態にしたこと。また、水が濁り、水質がカモ池の比ではないほど悪化したこと。これだけ見ても、全く生態系には馴染まないことがわかんと思います。そもそも日本に持ち込まれたのは昭和になってからで、たった20匹が今や北海道を除く全国にいるというのだから、その繁殖力は恐るべしです。そのせいかわかりませんが、まだ今年はアマガエルのオタマジャクシが見当たらないのも心配です。

5年目にして南のビオトープはピンチ。でもなんとか復元するべく生物部ともどもがんばっていきたくて考えています。ぜひ協力いただける方、お待ちしております。

(Izawa)

自然観察会 2009 春より…慶應志木の自然は貴重か？

Biosphere

地域との交流をめざす自然観察会は、今年で既に3年目を迎えた。昨年までの2年間は1回の参加者が平均30名ほどで、一般的な市立の自然博物館が開催する観察会と比肩できる程度の参加者数である。それが、今年の5月16日に開催した観察会では初めて90名を超え、井澤先生や速水先生と手分けをして校内の自然観察を実施することになった。自然に興味がある方々が集まってくださった結果だが、本校の抱える自然はそれほど貴重と言えるのだろうか？雑木林…樹林地という観点から眺めてみたい。

本校は志木市、朝霞市、新座市にまたがる。志木市内に分布する樹林地の総面積は約31万㎡（志木市役所HP-2000年版統計データ）だが、本校以外では新河岸川がつくった河岸段丘崖に断続・痕跡的に斜面林として残るのみである。朝霞市には約66万㎡の樹林地があるが（朝霞市役所HP-2008年版統計データ）、城山公園や根岸台緑地公園およびその周辺にまとまって残るのみである。新座市では108万㎡の樹林地を抱えるが（H19年版統計にいざ）、その内の43万㎡は平林寺の社寺林が占める。生態系はその面積規模で中に抱えることができる多様性の規模が決まるため、平林寺のようにまとまった樹林地は地域の中で重要なのである。

さて、本校の敷地面積は約18万㎡で そのうち30%が林地と仮定しても5万㎡強の面積を占める。この周辺で平林寺以外にこれだけの林地を維持している場所はそうないのである。

一度”Google Map”の航空写真モードで確認してみるとよい。

(Miyahashi)

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)